

2026 年 10 月 16 日

過日は、ひとりの小さな手プロジェクトの募金にご協力いただきましてありがとうございました。

いただきました募金は、昨年教会でイラスト展を開催されたイラストレーター みなみなさんの能登での活動に支援いたしました。

2024 年に起きた能登地震。まだまだ大変なことがたくさんあります。

みなみなさんが報告を送ってくださいました。

ひとりの小さな手プロジェクトでは、引き続き、チャリティー活動、募金活動をしていますので、皆さまよろしく願います。

みなみなさんから 穴水ボランティア報告

応援ありがとうございました

10 月 2 日から 10 日まで、能登地震キリスト災害支援会 <https://notohelp.bousai.network/>「能登ヘルプ」に活動拠点の一つである「のとヘルプ穴水ボランティアセンター」の集会室と宿泊所の壁、キッチンカーに絵を描きに行きました。犬を連れて行って毎日散歩させながら絵を描きましたが、穴水を散歩中も仮設住宅や工事の看板（写真①）、地震でぼこぼこになった道路で転びそうになったりして、今も能登の方々は大変な中で生活しておられることを知りました。去年開設したセンターの集会室や宿泊所の部屋、キッチンカーが殺風景で寂しい、から何か楽しい絵を描いてほしい、見る人が温かい気持ちになってほしい、といわれました。ボランティアセンターの集会所は去年開設した当時の建築資材がそのまま剥き出しの状態でしたし、きれいなキッチンカーも無地の塗装のままでした。集会室には湾に近くの高い瓦の家々や能登にいる鳥のヤマセミ、灯台など、能登っぽい景色、のイメージを広げました。初めは左右の壁 2 面という話でしたが、描いているうちに結局部屋全体を塗装することになりました。野毛山のお友達からの募金で支えていただいていることを思い、カエルさんも壁にいて能登の復興を応援してくれています。（写真②）能登ヘルプのキッチンカーは走っている時も、また、お料理を提供している時、それを待っている人たちの目線の先になにか楽しいものがあるといいな、と思って、中と外に絵を描きました。この能登ヘルプのキッチンカーは先日九州にも出張していたということで、今後全国の被災地に用いられるとのことでした。（写真③）穴水町役場の復興推進課の白いキッチンカーには、役場の方と相談した上で穴水町の名物的なものをアレンジして絵を描きました。宿泊所には、東北や関西からのボランティアの方が、数人泊まっておられ、仮設住宅訪問や、7 月の豪雨被害の泥のかき出しなどにきていました。震災から 2 年 10 ヶ月経ってもまだ能登には仮設住宅に 2 万人住んでいる、と京都から来た医師のボランティアの方が語っており、その方は穴水よりさらに被害の大きい珠洲市の集会所で落語の後健康相談をするために来たと言っていました（みなみのキッチンカー作業中に話をしている着物の女性。落語の衣装）ボランティアの方々が活動拠点として宿泊する家。その壁が寂しいので何か絵を描いて・・・と言われて、数箇所絵を描きました。（写真④）

みなみな



写真①工事中の看板



集会室の中



写真②



キッチンカー



みなみなみさんはカエルと小鳥を描いてくださいました。少しでも、その活動に参加できたということはとても嬉しいことですね。

写真④



写真③能登ヘルプキッチンカー

